

# キッズ・モニターアンケートの概要 「子どもの意識と生活について」

アンケートの実施結果は、以下のとおりでした。  
キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

## 概要

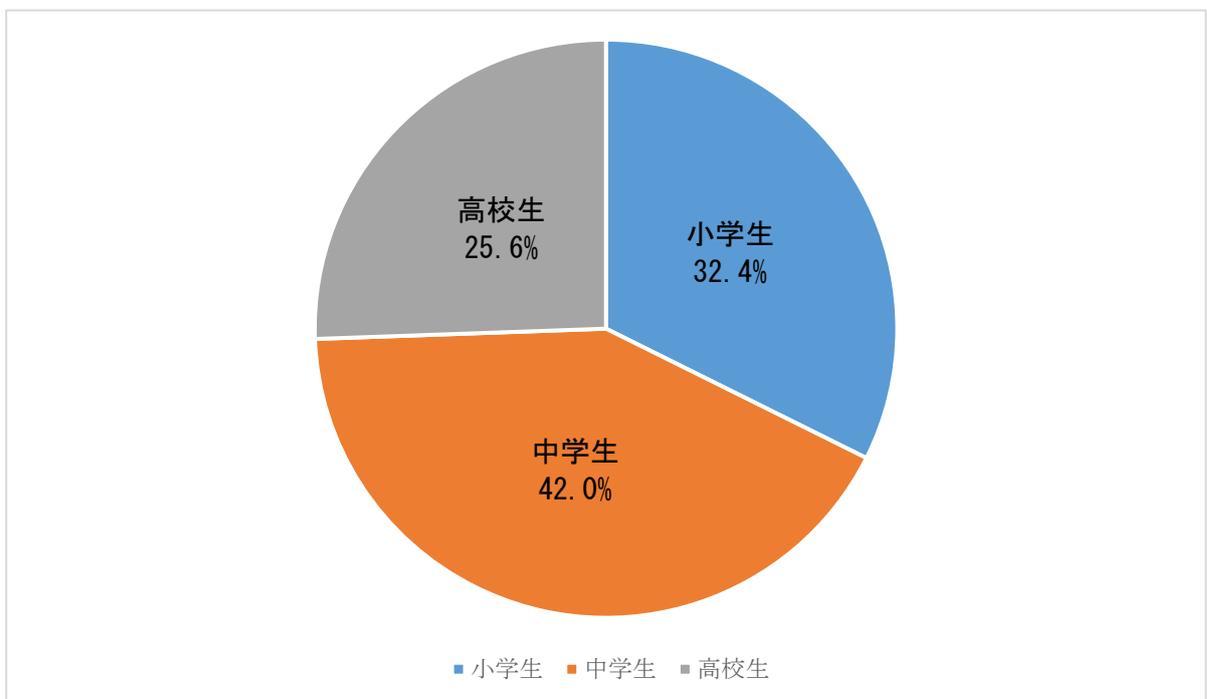
1. 実施期間 令和6年10月18日（金）～令和6年11月5日（火）
2. 回答者数 176人
3. 回答率 30.1%（176人／584人）
4. 実施方法 インターネットによるモニター調査
5. 担当課 子ども・福祉部 少子化対策課

## アンケート結果概要

Q1 あなたの年代はどれですか。

【単一回答】

今回答えていただいた方の年代は、下のグラフのようになりました。

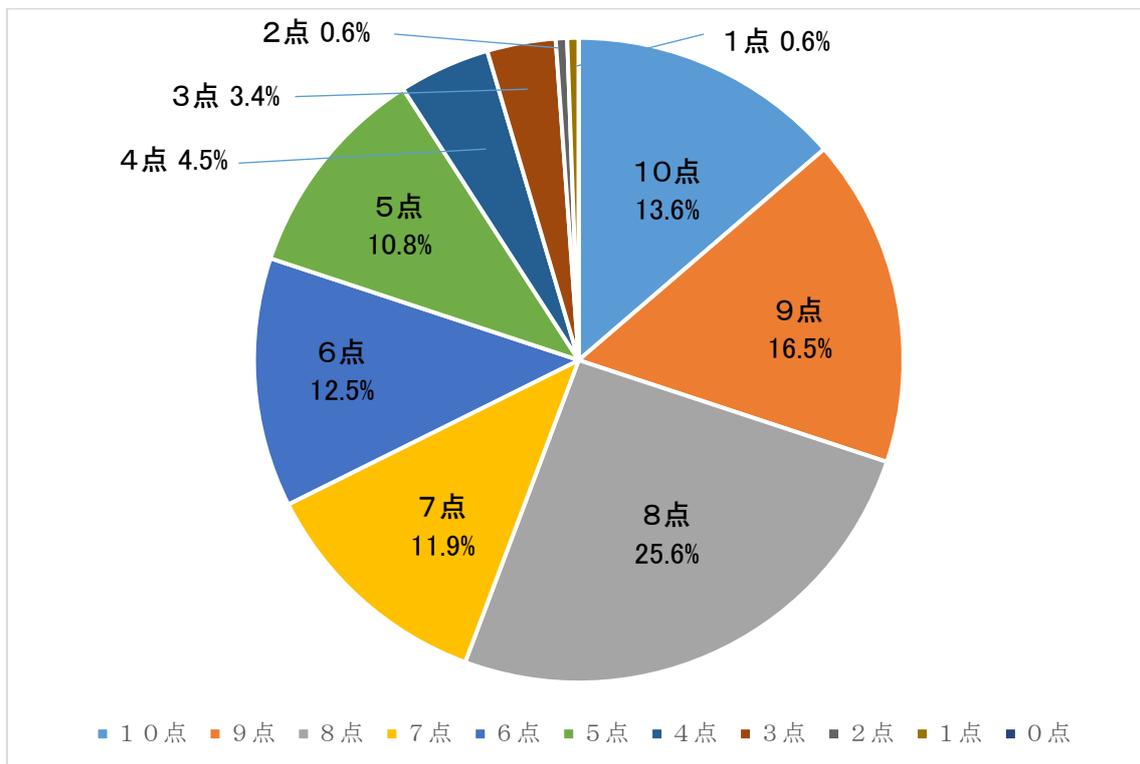


Q2 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。  
「0点」(まったく満足していない) から「10点」(十分に満足している) の数字で教えてください。

【単一回答】

多かった順に、8点が25.6%、9点が16.5%、10点が13.6%、6点が12.5%となっており、10点から7点までを合わせると67.6%となっています。

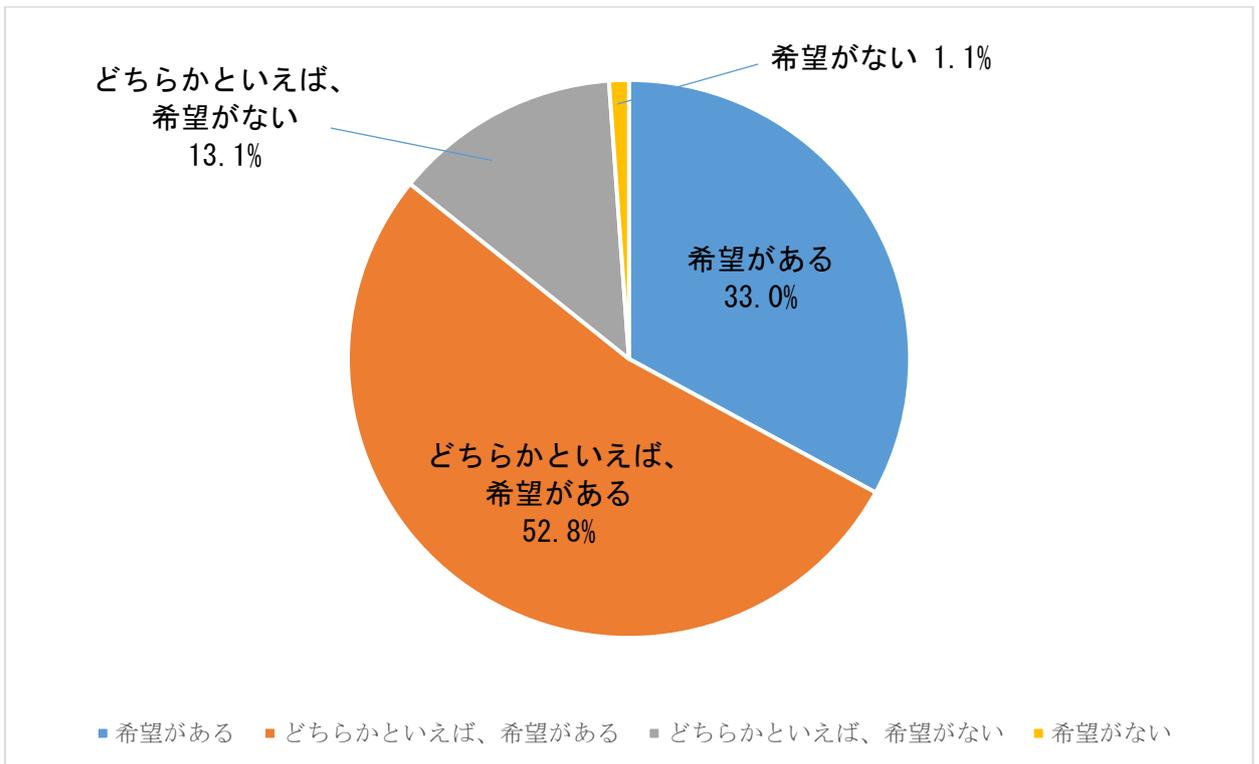
平均点は、7.3点でした。



Q3 あなたは、自分の将来について、明るい希望をもっていますか。

【単一回答】

「希望がある」、「どちらかといえば、希望がある」と回答した人は 85.8%、  
「どちらかといえば、希望がない」、「希望がない」と回答した人は 14.2%と  
なりました。



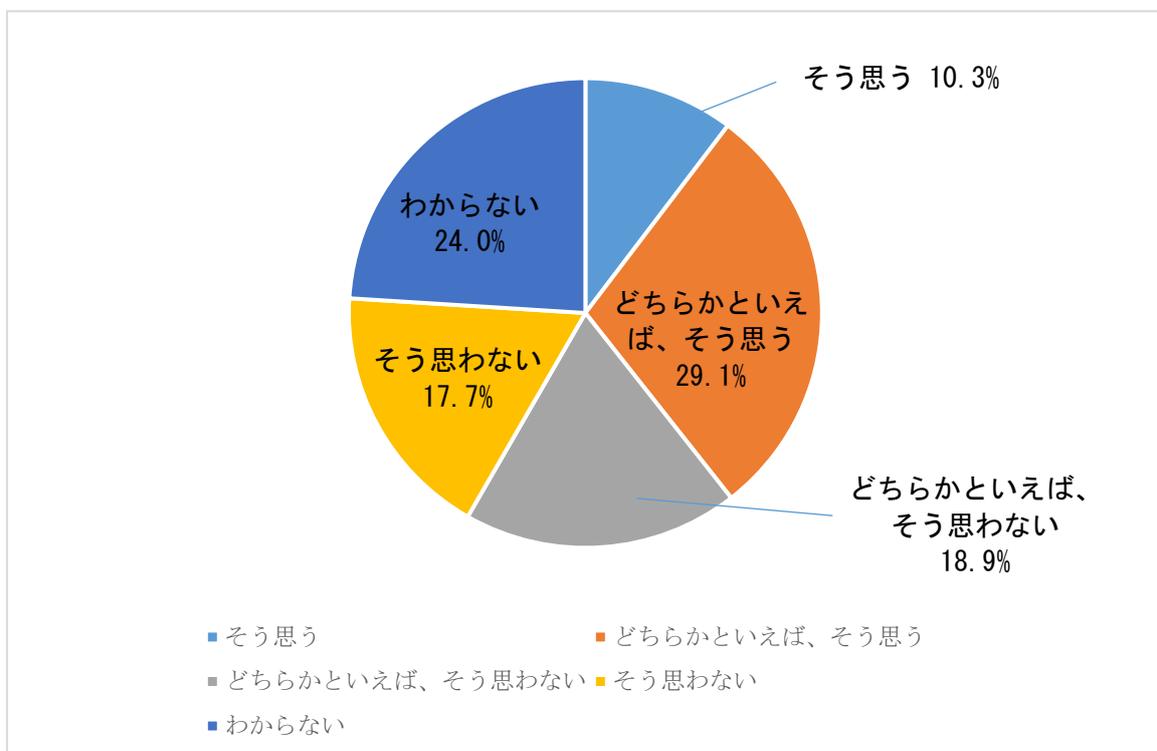
Q4 三重県が行う子どものための取組について、自分の意見が聴（き）いてもらえていると思いますか。

【単一回答】

「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答した人を合わせると39.4%でした。

一方で、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」と回答した人を合わせると36.6%、「わからない」と回答した人は24.0%でした。

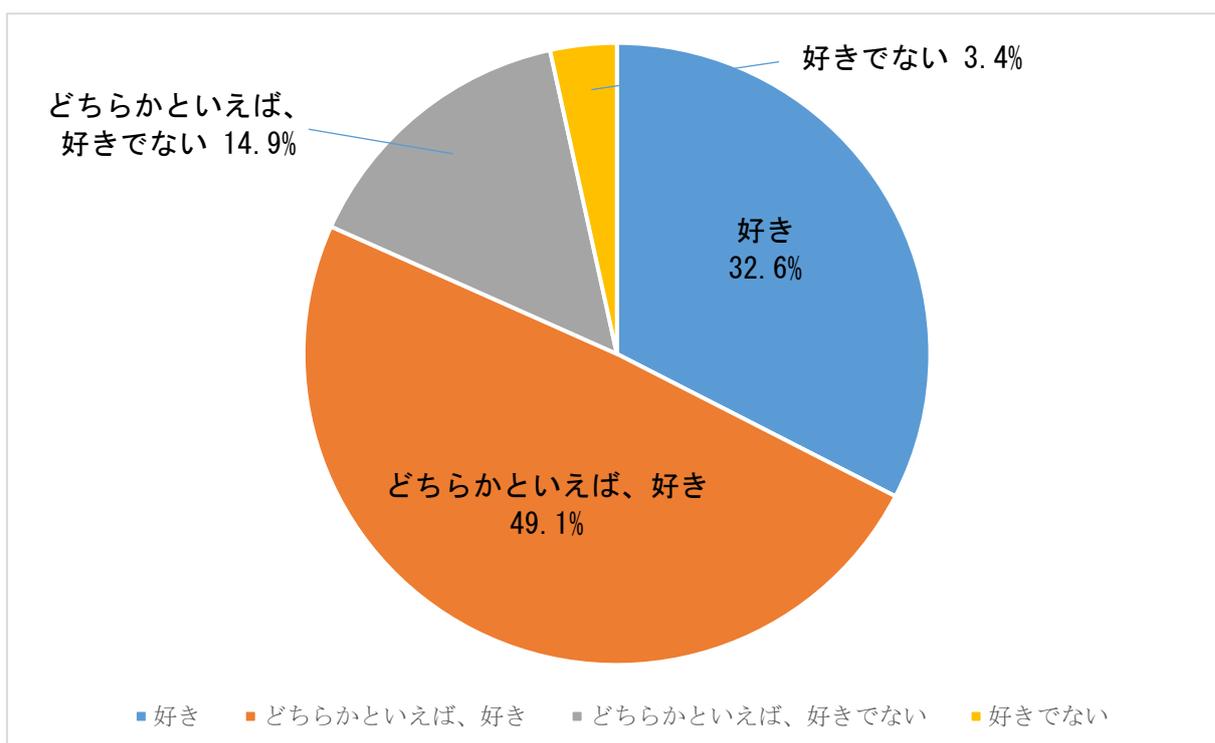
三重県が行う子どものための取組について、もっと子どもの意見を聴（き）いていく必要があると考えられる結果となりました。



Q5 あなたは、自分のことが好きですか。

【単一回答】

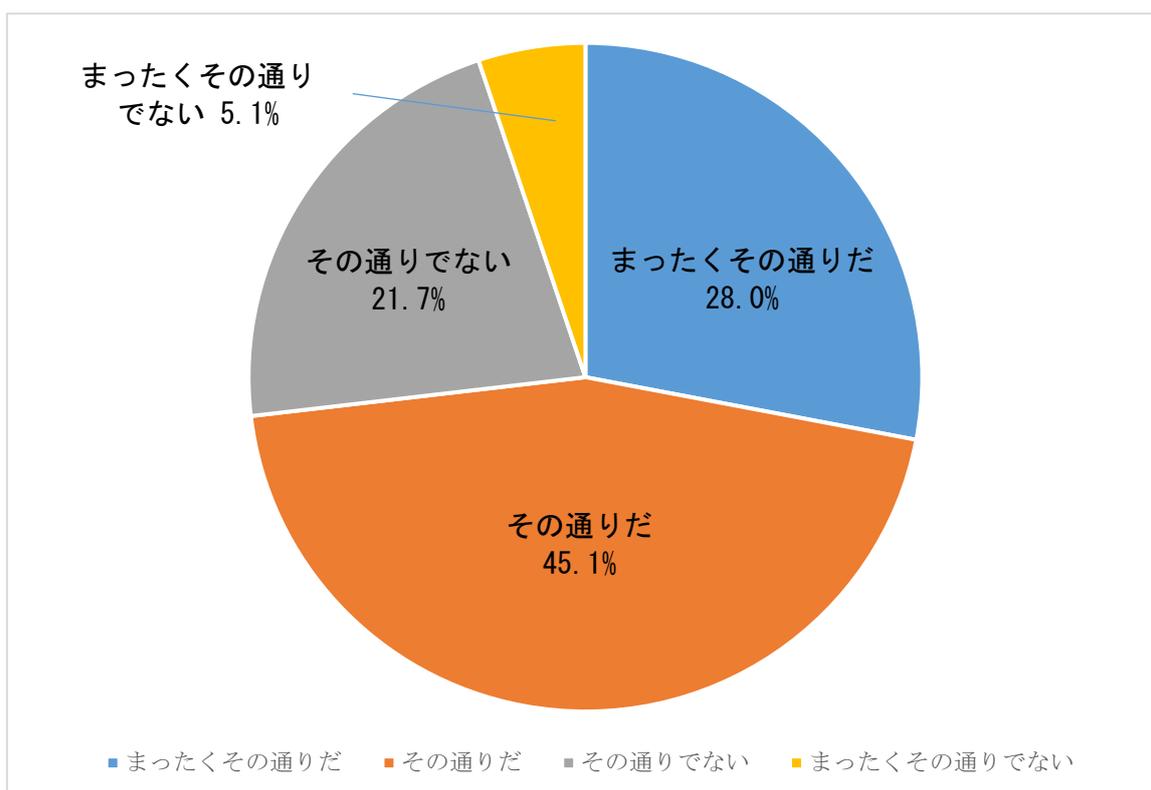
「好き」、「どちらかといえば、好き」と回答した人は81.7%、「どちらかといえば、好きではない」、「好きではない」と回答した人は18.3%となりました。



Q6 学校ではすぐに友達ができますか。

【単一回答】

「まったくその通りだ」、「その通りだ」と回答した人を合わせると73.1%、「その通りでない」、「まったくその通りでない」と回答した人を合わせると26.8%になりました。

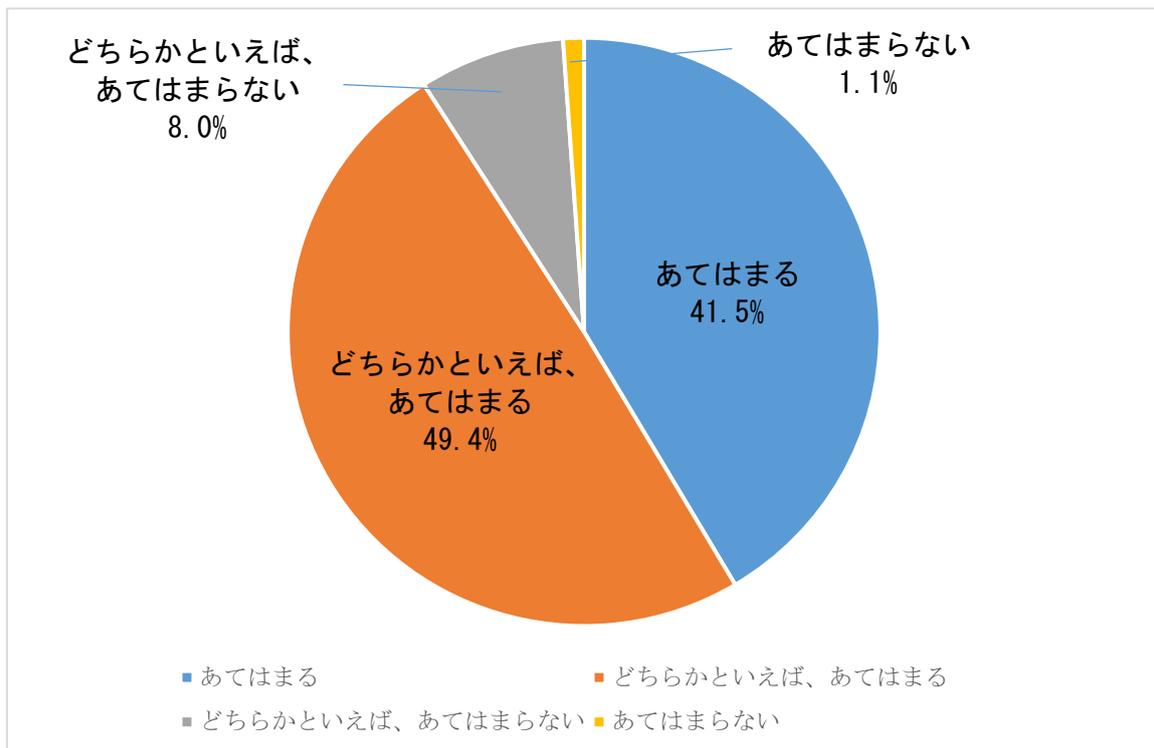


Q7 自分には自分らしさというものがあると思いますか。

【単一回答】

「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」と回答した人を合わせると90.9%となりました。

一方で、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と回答した人を合わせると9.1%となりました。



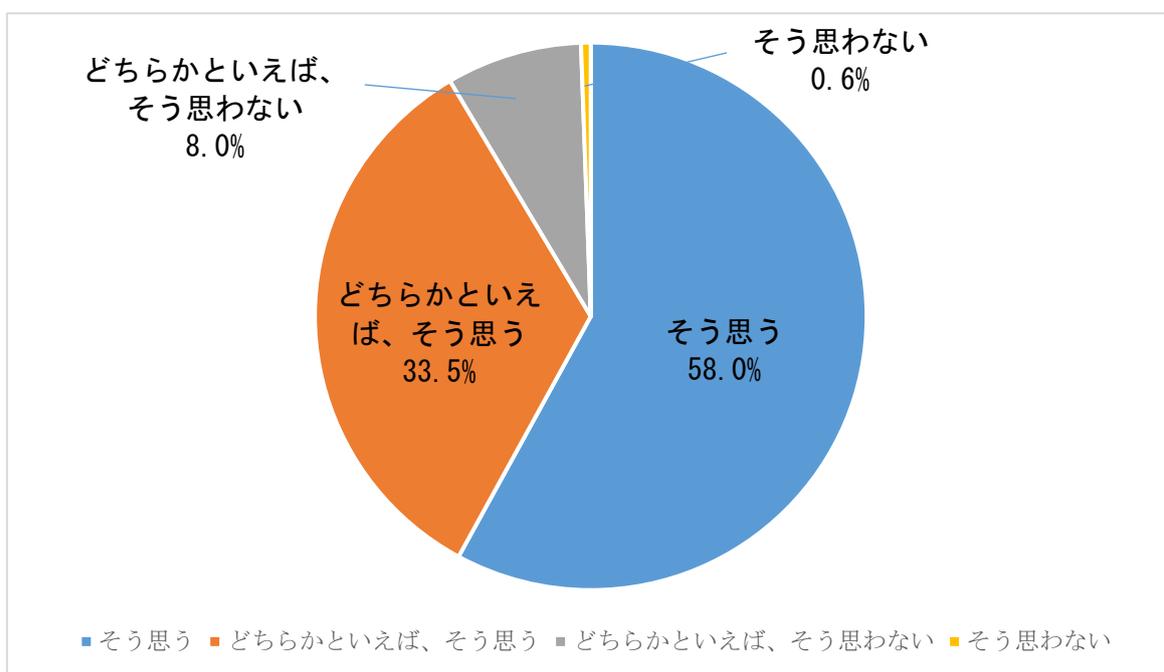
Q8 困った（こまった）ときに自分を助けてくれる人はいると思いますか。

（例：家族・親族、学校で出会った友人、地域（ちいき）の人、インターネット上における人やグループなど）

【単一回答】

「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答した人を合わせると91.5%となりました。

一方で、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」と回答した人を合わせると8.6%となりました。



Q9 三重県には、すべての子どもが人として大切にされて生きることができるように子どもの権利（けんり）について決めた「三重県子ども条例」があります。

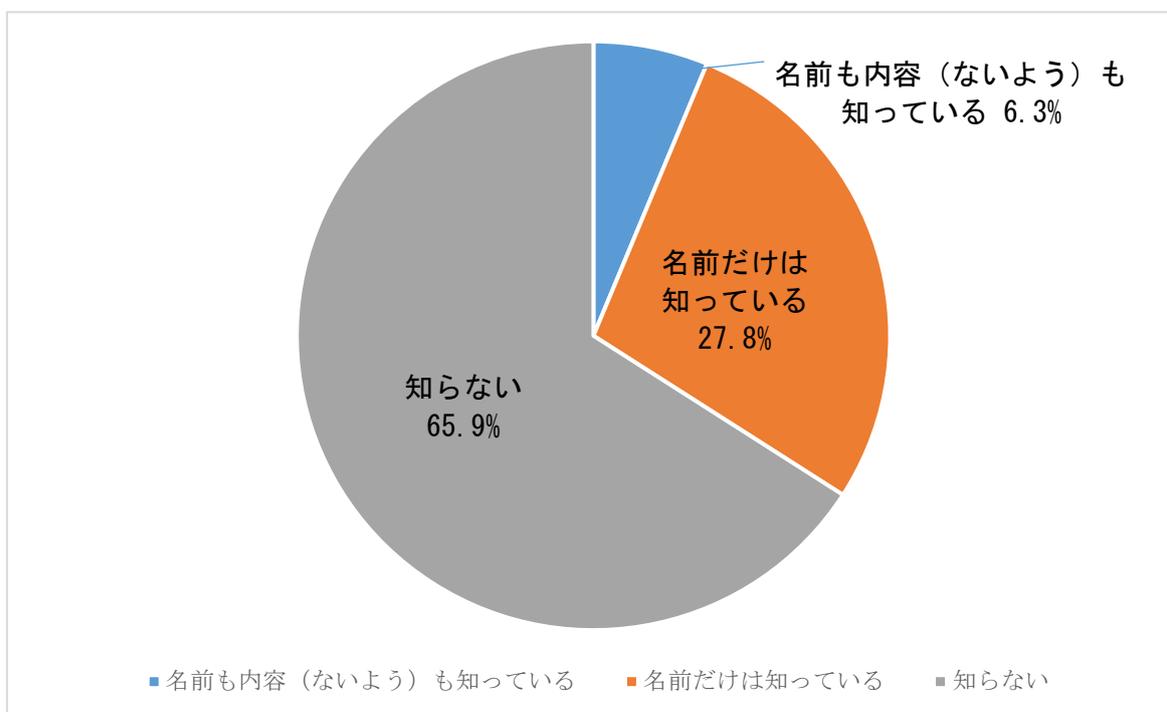
あなたは、「三重県子ども条例」のことを知っていますか。

【単一回答】

「名前も内容（ないよう）も知っている」、「名前だけは知っている」と回答した人を合わせると、34.1%となりました。

一方、「知らない」と回答した人が65.9%と最も多くなりました。

子どもの権利を守るためには、「三重県子ども条例」がもっと広く知られるよう取り組む必要があります。



Q10 Q9で「名前も内容（ないよう）も知っている」「名前だけは知っている」と答えた人にお聞きします。

あなたが「三重県子ども条例」を知ったきっかけは何ですか。  
あてはまるものをすべて選んでください。

【複数回答】

「学校の授業（じゅぎょう）」が最も多く 33.8%、次いで「パンフレット」が 21.6%、「インターネット」が 16.2%などとなっています。

もっと広く子ども条例を知ってもらうためには、学校との連携を進めることが効果的と考えられる結果となりました。

